

環境省・オフセット・クレジット認証運営委員会
(事務局:気候変動対策認証センター)御中

平成23年 1月25日

オフセット・クレジット(J-VER)プロジェクト登録依頼書

オフセット・クレジット(J-VER)制度における妥当性確認が終了しましたので、プロジェクト登録を依頼します。

プロジェクト名 ¹			
大阪府株式会社大阪前田製菓におけるボイラー装置の更新技術による温室効果ガス削減事業			
【依頼者】プロジェクト代表事業者			
事業者名(フリガナ)	株式会社大阪前田製菓 (カブシキカイシャオオサカマエダセイカ)		
住所	大阪府藤井寺市小山6丁目5番46号		
代表者氏名	前田 重和	代表者役職	代表取締役
担当者氏名	中谷 恵一	担当者 所属部署・ 役職	管理部・部長
担当者 E-mail	nakatani@osaka-maeda.co.jp	担当者電話 番号	072-952-0029
プロジェクト事業者・プロジェクト参加者			
プロジェクト事業者名	株式会社大阪前田製菓		
プロジェクト参加者名	財団法人大阪府みどり公社		
オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者			
事業者名(フリガナ)	株式会社大阪前田製菓		
	以下のうち当てはまる項目に☑ <input checked="" type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト代表事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト参加者である。		

¹ プロジェクト名は、抽象的な表現を避け、「〇〇県△△事業者による□□(排出削減技術)を用いた温室効果ガス排出削減事業」のように、先にプロジェクト実施場所やプロジェクト事業者名を入れる等により、第三者に事業内容が伝わりやすいものとしてください。但し、事業の愛称やキャッチコピーをサブタイトルとしてつけていただくことは可能です。

妥当性確認機関	
妥当性確認機関名	ペリージョンソンレジストラークリーンディベロップメントメカニズム株式会社
プロジェクト情報	
プロジェクト概要 ²	<p>(具体的な内容を簡潔に記載すること。)</p> <p>【プロジェクトの目的・内容】</p> <p>1. 目的 大阪前田製菓では、工場の省エネ対策に取り組んでおり、ボイラーの燃料代替をオフセット・クレジットの対象案件として設備資金に充当することにより、更なる省エネ対策の推進を図る。</p> <p>2. 方法 重油を使用するボイラーから都市ガスを使用する高効率ボイラーに転換することにより、化石燃料による CO2 排出量の削減を図る。</p> <p>【適格性基準との整合性】</p> <p>条件1 A 重油ボイラー(1,000kg/h 1台 サムソン形式 BOα-1000、1,500kg/h 1台 サムソン形式 BOα-1500)から高効率都市ガス貫流ボイラー(1,000kg/h、2台サムソン形式 NFBS-1000PN)に転換。高効率ボイラーの導入とA 重油から都市ガスへの燃料転換により化石燃料による CO2 排出量を削減。 ボイラー効率が 85%から 96%に代わるので、既存よりも高効率である。 既存ボイラーは更新により撤去するまで正常に稼働し蒸気を工場で使用していたため継続可能な状態であり、故障や老朽化による更新ではない。更には、導入ボイラーは蒸気発生のみでありコージェネではない。</p> <p>条件2 これまで A 重油を使用していたボイラーを都市ガスに燃料転換すること、熱効率 85%であった旧式ボイラーを熱効率 96%の高効率ボイラーに更新するため CO2 排出量が削減される。</p> <p>条件3 ボイラーで発生させた蒸気は自社工場の菓子製造装置等で全て自家消費している。</p> <p>条件4 ・CO2削減量:133t CO2/年 本プロジェクトは、年間マイナス約 340 万円と試算され、プロジェクトの採算性はない。 ・プロジェクト総事業費:12,791 千円 ・補助金等:4,321 千円((交付予定額)都市ガス振興センター補助金(税込))</p>

² プロジェクト概要は、プロジェクトの目的・内容の他、適格性基準との整合性・法令遵守状況・採用技術・モニタリング方法・GHG算定式の方法論への準拠性・モニタリング体制・QA/QC体制等に関することを2 ページ以内で具体的に記述してください。

	<p>・燃料削減費:8,288 千円/年－11,768 千円/年 = -3,480 千円/年</p> <p>【代替前】</p> <p>・A 重油の年間消費量 155.5kl/年 (53.3※円/l) ⇒ 8,288 千円/年 (155.5kl/年 × 53.3 円/l × 1,000) ※平成 22 年9月の購入単価実績値</p> <p>【代替後】</p> <p>・都市ガス年間消費量(推計値)132.5 千m³(88.8※※円/m³) ⇒ 11,768 千円/年 (132.5 千m³/年 × 88.8 円/m³ × 1,000) **平成 22 年9月の大阪ガスの支払い実績から算出した単価</p> <p>【法令遵守状況】</p> <p>消防法及び労働安全衛生法に基づく届出済</p> <p>【採用技術】</p> <table border="1" data-bbox="406 840 1412 974"> <thead> <tr> <th>機器名</th> <th>メーカー名</th> <th>耐用年数</th> <th>導入時期</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貫流ボイラー</td> <td>サムソン NFBS-1000PN 2 台</td> <td>15 年</td> <td>平成 23 年 1 月 12 日</td> <td>設備容量： 2t/h(1t/h × 2 台)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【モニタリング方法】</p> <p>購入伝票で把握</p> <p>【GHG 算定式の方法論への準拠性】</p> <p>全て準拠する。</p> <p>【モニタリング体制】</p> <p>ボイラーの稼働実績等の記録は毎日記録し、担当者が保管管理し、報告書は管理責任者が認証するとともに第三者機関(財)大阪府みどり公社)が年 1 回以上チェックを行う。</p> <p>【QA / QC 体制】</p> <p>工場内での省エネ対策に取り組むとともに、社員の教育・訓練を行い、情報の保管、データの確認や内部データチェックを行う体制を社内に構築するとともに、年に 1 回は管理責任者が指名する内部監査員による監査を行いプロジェクトの進捗状況を審査するとともに、第三者機関からの検証も受ける。</p>	機器名	メーカー名	耐用年数	導入時期	備考	貫流ボイラー	サムソン NFBS-1000PN 2 台	15 年	平成 23 年 1 月 12 日	設備容量： 2t/h(1t/h × 2 台)
機器名	メーカー名	耐用年数	導入時期	備考							
貫流ボイラー	サムソン NFBS-1000PN 2 台	15 年	平成 23 年 1 月 12 日	設備容量： 2t/h(1t/h × 2 台)							
プロジェクト実施場所	(プロジェクト実施場所が複数ある場合は、全ての住所を表形式等で記述する。) 大阪府藤井寺市小山 6 丁目 5 番 46 号										
プロジェクト期間	2011 年 1 月 12 日 ～2026 年 1 月 11 日(15 年 0 ヶ月)										
クレジット期間	2011 年 1 月 12 日 ～2013 年 3 月 31 日										

プロジェクト計画 開始届提出日		平成22年12月20日					
妥当性確認終了 日		平成23年1月24日					
想定削減・吸 収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO ₂ ³	—	—	29	133	133	295
適用モニタリング 方法ガイドライン		オフセット・クレジット(J-VER)制度モニタリング方法ガイドライン (排出削減プロジェクト用) ver.2.3					
適用方法論		方法論番号	E_011 ver.1.2				
		方法論名称	ボイラー装置の更新				
ダブルカウントの防止措置							
ダブルカウントの 防止の措置を講 ずる事業者		(プロジェクト代表事業者と同一の場合は記入不要)					印
公的な報告・公表 制度(判明してい る公的制度)		プロジェクト代表事業者は、本プロジェクトに関して他のクレジット制度等に対して排出削減量を主張しない。					
自主的な報告・公 表対象(対象とな るホームページ、 環境報告書等)		プロジェクト代表事業者は、取得したオフセット・クレジット(J-VER)を他者に引き渡した場合、ホームページや環境報告書等で自社排出量の削減が行なわれたといった主張は行なわない。					
備考欄							

以上

³ 小数点以下は切り捨てとし、トン単位で記載してください。よって、小数点処理のため、表記上では単年度の削減量・吸収量の合計と、各年度合計量が異なることもあり得ます。